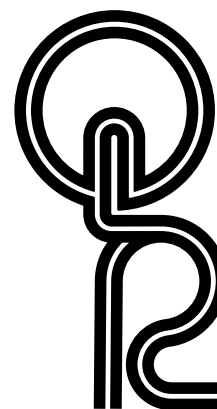


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 6 No. 4, 1999



Hogの土採場におけるHudiksvallエスカーの断面。液状化により激しい擾乱を受けたパ
ープの年代は9663年前であり、この基準層をseismiteとよんでいる。(撮影 植村善博)

Vol. 6 No. 4

日本第四紀学会 1999 年大会第 4 報	2	潮汐堆積物 -2000	14
The 31st INTERNATIONAL GEOLOGICAL CONGRESS	11	海外巡検報告	15
自然史学会連合ニュース	12	尾瀬賞・沖縄賞推薦募集	16
IGCP Project 437	13	学会連絡	16
		会員消息	18

日本第四紀学会 1999 年大会 総会・研究発表会（第 4 報）

総会・一般研究発表・シンポジウム
会場 京都大学理学研究科

1. 日程

1999 年 8 月 23 日（月）一般研究発表 理学部 1 号館大講義室（5 階）

9:00 ~ 10:24 オーラルセッション（O-1 ~ 7）

10:24 ~ 10:36 コーヒーブレイク

10:36 ~ 12:00 オーラルセッション（O-8 ~ 14）

12:00 ~ 13:00 昼休み（幹事会 会議室）

13:00 ~ 14:20 ポスターセッション ショートサマリー発表（P-1 ~ 40）

14:20 ~ 16:00 コーヒーブレイク・ポスターセッション 理学部 1 号館大会議室（5 階）

16:00 ~ 17:48 オーラルセッション（O-15 ~ 23）

18:00 ~ 19:30 評議員会（理学部 4 号館）

ポスター展示時間 12:00 ~ 18:00

1999 年 8 月 24 日（火）一般研究発表 理学部 1 号館大講義室（5 階）

9:00 ~ 10:36 オーラルセッション（O-24 ~ 31）

10:40 ~ 12:00 日本第四紀学会総会 理学部 1 号館大講義室（5 階）

12:00 ~ 13:00 昼休み

13:00 ~ 14:36 オーラルセッション（O-32 ~ 39）

14:36 ~ 16:00 コーヒーブレイク・ポスターセッション 理学部 1 号館大会議室（5 階）

16:00 ~ 17:36 オーラルセッション（O-40 ~ 47）

18:00 ~ 20:30 懇親会（京大北部構内生協「ほくと」）

ポスター展示時間 9:00 ~ 16:00

1999 年 8 月 25 日（水）シンポジウム 理学部 1 号館大講義室（5 階）

「活構造と都市地盤・災害 阪神大震災から 5 年目の発信」

9:00 ~ 17:00 シンポジウム講演（S-1 ~ 14）

1999 年 8 月 26 日（木）～ 27 日（金）巡検

案内 寒川 旭・小松原 琢・水野清秀（地質調査所）

「近畿三角帯北部の歴史地震と地殻変動」

1999 年 8 月 26 日（木）14:00 ~ 16:30 普及講演会

会場 京都市国際交流会館イベントホール

（京都市左京区粟田口鳥居町 2 - 1，電話 075-752-3010）

尾池和夫氏講演 『京都における歴史地震』

岡田篤正氏講演 『京都盆地における活断層』

「普及講演会」は、京都市と共催です。会場が異なりますので注意して下さい。

- * オーラルの講演は例年通り1会場で行われます。発表時間は1件12分で質問時間を含みます。ベルは1鈴8分、2鈴10分、終鈴12分です。2鈴で講演を終え残り時間を質疑に充ててください。
- * 一般研究発表でのスライド・OHPの使用は合計で8枚以内をお願いします。スライドは発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出して下さい。OHPはご自分で操作して下さい。
- * ポスターセッションは横90cm、縦210cmのパネルが用意され、ポスターの展示は2日間通しとなります。掲示時間は23日12:00～24日17:00です。なお、午後のコーヒブレイク時間には質問等が受けられるよう、発表者はできる限りポスターセッション会場に居て下さい。
- * ポスターセッション講演者にはオーラル講演の間に1件2分以内のショートサマリー発表の時間が与えられます。2枚以内のOHPを使って要領よくセールスポイントを伝えて下さい。

2. 会場

一般研究発表・総会・シンポジウム：京都大学理学研究科，理学部1号館5階
(京都市左京区北白川追分町)

交通案内：次ページ参照

京都大学理学部構内では駐車場がありませんので車での参加はご遠慮ください。

普及講演会：京都市国際交流会館イベントホール

(京都市左京区粟田口鳥居町2-1，電話075-752-3010)

懇親会：京大北部構内生協「ほくと」

(会場への道順は研究発表会場でお知らせします)

大会連絡先：京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地球物理学教室

606-8502 京都市左京区北白川追分町 竹村恵二

Tel 075-753-3942 (研究室) 075-753-3910 (事務室)

Fax 075-753-4291 (研究室) 075-753-3717 (事務室)

e-mail takemura@kugi.kyoto-u.ac.jp

大会実行委員会

委員長：岡田篤正 副委員長：増田富士雄

委員：竹村恵二・堤 浩之・寒川 旭・水野清秀 ほか

3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売します。定価は2,000円です。通信販売もいたしますので購入ご希望の方は、学会事務センター(日本第四紀学会事務局)に申し込んで下さい。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC-21

(財)日本学会事務センター 事業部

TEL 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822

4. 参加費

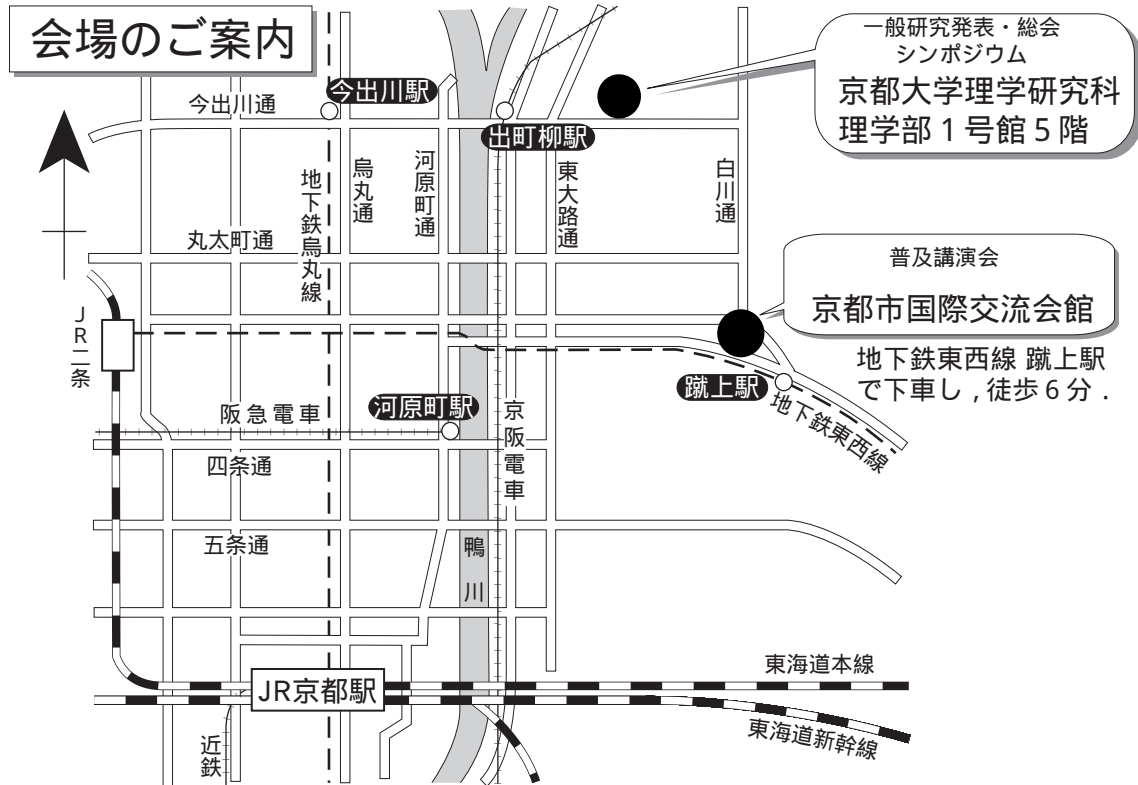
今大会では、会員・非会員を問わず参加費として2,000円を徴収します。大会経費節約のためご協力をお願いいたします。なお普及講演会は無料です。

5. 懇親会

8月24日(火)18時から 場所：京大北部構内生協「ほくと」

参加費；一般：5,000円，学生：3,000円

8月23日から第四紀学会会場で受け付けます。



JR京都駅「京都駅八条口」バス停より今出川通經由銀閣寺行き（17系統）に乗車し、「百万遍」バス停で下車。バス停より徒歩。
 地下鉄烏丸線 今出川駅「烏丸今出川」バス停より白川通經由錦林車庫行き（203系統）に乗車し、「百万遍」バス停で下車。バス停より徒歩。
 阪急 河原町駅「四条河原町」バス停より今出川通經由銀閣寺行き（17系統）に乗車し、「百万遍」バス停で下車。バス停より徒歩。
 京阪 出町柳駅を下車し東へ徒歩15分。

大会特別価格ブックセール

大会期間中の8月23日～25日に第四紀研究のバックナンバーと第四紀露頭集の特別販売を行います。1991年までの旧表装の第四紀研究（各500円、特集号1,000円）、1992年以降の新表装（各1,000円、特集号2,000円）、講演要旨集（1996年東京大会500円、1998年小田原大会1,000円）、第四紀露頭集 日本のテフラは1,000円です。大会会場特別価格のため、特別価格での通信販売で行っておりません。

学会からのお知らせ

総会に出席できない方は委任状を下記幹事長あてお送り下さい。
 コピー（官製はがきに貼付でも可）または同様の文面でも結構です。

委任状

1999年 月 日

日本第四紀学会会長殿

氏名

私は議長（または 氏）を代理人と定め、1999年度日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任します。

送付先： 真野勝友

〒112-0012 文京区大塚3-29-1 筑波大学学校教育部
 Tel/Fax:03-3942-6843 E-mail: mano@gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp

6. プログラム

シンポジウム「活構造と都市地盤・災害 阪神大震災から5年目の発信」

世話人：岡田篤正・竹村恵二・杉山雄一・三田村宗樹・増田富士雄

3日目：8月25日(水)：理学部1号館大講義室(5階)

講演時間	題目・氏名
9:00 9:10	シンポジウム趣旨説明
< 活構造 >	
S-1 9:10 9:50	近畿三角地帯における活断層調査 - 主要活断層の地震危険度評価はどこまで進んだか..... 杉山雄一・寒川 旭(地調)
S-2 9:50 10:20	内湾の活構造 - 大阪湾と伊勢湾 岩淵 洋(海上保安庁水路部) コメント
S-3 10:20 10:35	1. 活断層調査の現状と課題..... 岡田篤正(京大)
S-4 10:35 10:50	2. 活断層の長期評価と問題点..... 松田時彦(西南大)
< 地盤と堆積平野 >	
S-5 10:50 11:30	大阪～神戸地域の第四紀地盤の形成過程..... 三田村宗樹(大阪市立大)・竹村恵二(京大)
S-6 11:30 12:00	重力調査・反射法地震探査から見た基盤構造..... 中川康一(大阪市立大・院)
12:00 13:00	昼食 コメント
S-7 13:00 13:15	1. 堆積平野下の地盤構成と活構造..... 佐野正人(サンコーコンサルタント(株))
S-8 13:15 13:30	2. 沖積平野の地質構成とイベント堆積物..... 増田富士雄(京大)
S-9 13:30 13:45	3. 反射法地震探査と地下構造解析の重要性と問題点..... 横田 裕(阪神コンサルタンツ)
< 地盤災害 >	
S-10 13:45 14:25	強震動予測と災害..... 入倉孝次郎・岩田和孝(京大・防災研究所)
14:25 14:40	休憩 15分
S-11 14:40 15:10	液状化現象とその地質・地形条件..... 陶野郁雄(国立環境研)
S-12 15:10 15:40	G I S情報と地震災害..... 碓井照子(奈良大)
コメント	
S-13 15:40 15:55	1. 地震被害と地形・地質・地盤条件 - "震災の帯"の中で被害差の要因について..... 石川浩次・細矢卓志(中央開発(株))
S-14 15:55 16:10	2. 活断層の分布形態と破壊過程..... 中田 高(広島大)・鈴木康弘(愛知県立大)

普及講演会

4日目：8月26日(木)：14:00 16:00 京都市と共催

京都市国際交流会館イベントホール

尾池和夫氏 『京都における歴史地震』

岡田篤正氏 『京都盆地における活断層』

一般研究発表
 オーラルセッション
 1日目：8月23日(月)

No.	講演時間	題目・氏名
O-1	9:00 9:12	大阪平野・濃尾平野の中部更新統 完新統地質・火山灰層序 宮川ちひろ(財) 大阪土質試験所)
O-2	9:12 9:24	大阪層群海成粘土層 Ma9 で発見された地磁気エクスカージョン 桐本尚志・兵頭政幸・D.K.Biswas・安藤健一・松島寛美(神戸大)・加藤茂弘・佐藤裕司(兵庫県人と自然博)
O-3	9:24 9:36	ローム層の磁化率測定に基づく段丘面の対比と編年 - 信濃川中流域,小千谷市付近を事例に - 金 幸隆(京大・院)・品川俊介(建設省土木研)
O-4	9:36 9:48	能登半島珠洲・平床台地に発達する海成中位段丘の対比 嶋田一勝・立石雅昭(新潟大)
O-5	9:48 10:00	下北半島, 田名部低地帯の更新世海進・海退堆積物 桑原拓一郎・山崎晴雄(都立大)
O-6	10:00 10:12	東海層群 Kpm 火山灰層と古水系 松葉千年(桑名市)
O-7	10:12 10:24	日本海堆積物の放射性炭素年代からみた鬱陵 - 大和火山灰の年代 池原 研・吉川清志(地調)
	10:24 10:36	コーヒーブレイク
O-8	10:36 10:48	鹿児島湾北西岸における阿多火砕流の堆積環境と海成段丘の編年 森脇 広(鹿児島大)・新井房夫・John Westgate(トロント大)
O-9	10:48 11:00	飛騨高山地域で見出された広域テフラ 田村糸子(都立大)・竹村 円リジア((株)ダイヤコンサルタント)
O-10	11:00 11:12	ステージ 5e 海成層と Aso - 3 テフラの層序関係について 下山正一(九州大)・小松貴史・宮田雄一郎(山口大)・竹村恵二(京大)
O-11	11:12 11:24	肝属平野における完新世の海面変化 永迫俊郎(東大・研)・森脇 広(鹿児島大)・松島義章(生命の星地球博)・新井房夫(群馬大・名)・岩井雅夫(高知大)・町田 洋(都立大・名)・藤原 治(JNC)
O-12	11:24 11:36	房総半島・大房岬の海成段丘からみた古海水準と酸素同位体比曲線から得た海水準曲線との比較 菊地隆男(都立大)
O-13	11:36 11:48	喜界島における完新世サンゴ礁の離水過程と剥離浸食作用 佐々木圭一(金沢大)
O-14	11:48 12:00	更新統浅海成炭酸塩堆積物(琉球層群)に保存された浮遊性有孔虫殻の"初生的"酸素・炭素安定同位体組成 坂井三郎(広島大)・本山 功(琉球大)
	12:00 13:00	昼食休憩(幹事会:会議室)
	13:00 14:20	ポスターセッション ショートサマリー(P-1 P-40, 各2分)
	14:20 16:00	コーヒーブレイク・ポスターセッション 理学部1号館大会議室(5階)
O-15	16:00 16:12	フィリピン国パラワン島の中期完新世の海水準変動 前田保夫・フェルナンド・シリガン・ミゲール・カノ(フィリピン大)・佐藤裕司(兵庫県人と自然博)・中村俊夫(名古屋大)・大村明雄(金沢大)
O-16	16:12 16:24	フィリピン諸島パングラオ島産更新世サンゴの ²³⁰ Th/ ²³⁴ U年代測定とその意義 大村明雄(金沢大)・河名俊男(琉球大)・前田保夫・Fernando P.Siringan(フィリピン大)
O-17	16:24 16:36	サハリン中部東海岸地域のレスのOSL・TL年代測定 植木岳雪・塚本すみ子(都立大)・A., コズーリン・M., ストレリーツォフ(ロシア科学アカデミー)

○-18	16:36	16:48	中国遼寧省におけるレス - 古土壌堆積物に記録された過去 5 万年間のアジアモンスーン変動 山田和芳・福沢仁之(都立大)・尹 懷寧(遼寧師範大)
○-19	16:48	17:00	中国北部や韓国済州島のレス古土壌やマール堆積物に記録された過去 5 万年間のアジアモンスーン活動 福澤仁之・山田和芳・塚本すみ子・岩田修二(都立大)・藤原 治(核燃料サイクル)・松岡数充(長崎大)・竹村恵二(京大)・北川浩之(名古屋大)・安田喜憲(日文研)
○-20	17:00	17:12	黄河三角州と長江三角州の比較 斎藤文紀(地調)
○-21	17:12	17:24	音波探査による中国・太湖湖底に存在する埋没地形とその意義 清野裕丈・志賀研吾・小森次郎(日大)
○-22	17:24	17:36	海成・湖成堆積物の溶出液の主要溶存成分と微化石分析による古環境データの対応性 - 中国太湖南岸ボーリング試料の例 - 小森次郎(日大)
○-23	17:36	17:48	鹿児島県熊毛郡南種子町マングローブ沼沢地堆積物の有機地球化学的研究及び堆積物中の貝化石群について(2) 佐藤喜男・鈴木祐一郎・山本正伸・斎藤文紀(地調)
	18:00	19:30	評議委員会(理学部4号館)

オーラルセッション
2日目: 8月24日(火)

○-24	9:00	9:12	網走湖近 2500 年間の環境変遷 その 1 - 網走湖の地質と底質 - 許 成基・山邊希世(レアックス)・神保正義(北海道開発局)・村山雅史(北大)・松岡裕美・岡村 真(高知大)
○-25	9:12	9:24	網走湖の過去 2500 年間の環境変遷・その 2 - 珪藻および花粉化石群集に基づく古環境の復元 - 村田泰介(北大・院)・五十嵐八枝子(アースサイエンス)・村山雅史(北大)・中村俊夫(名大・年代測定セ)・岡村 真・松岡裕美(高知大)・許 成基(レアックス)・白河利夫(北海道開発局)
○-26	9:24	9:36	気候の急激な温暖化に対する植生の応答:北海道南西部における更新世/完新世境界 紀藤典夫(北教大函館)・新谷世生子
○-27	9:36	9:48	奥尻島稲穂において約 2 万年前に生育したグイマツを伴う北方針葉樹林 - 花粉分析と AMS ¹⁴ C 年代 - 星野フサ(札幌静修高)・中村俊夫(名古屋大)・瀬川秀良(元北海道教育大)
○-28	9:48	10:00	中部更新統田名部層汐崎部層の堆積相と花粉組成から見た環境変遷 鎌田耕太郎・皆川弥生(弘前大)
○-29	10:00	10:12	上越市高田市街地における地盤沈下の現状 陶野郁雄(国立環境研)・関谷一義(新潟県保健環境科学研究所)
○-30	10:12	10:24	東京湾における沖積層層序と古環境変遷 増淵和夫(川崎市青少年科学館)・井上朋子(横河トレーディング)・安間 恵(川崎地質)・関本勝久(地質科学リサーチ)・清水恵助(九州工業大)・杉原重夫(明治大)
○-31	10:24	10:36	三浦半島北西部池子谷における縄文海進期沿岸域の古環境復元 江口誠一(千葉県立中央博物館)・村田泰輔(北大)
		10:40	日本第四紀学会 1999 年総会 理学部 1 号館大講義室(5 階)
		12:00	昼食休憩
○-32	13:00	13:12	御蔵島, 鈴原湿原堆積物の層序と花粉分析 関口千穂(明治大・院)・叶内敦子・杉原重夫(明治大)
○-33	13:12	13:24	神奈川県西部, 極楽寺シラカシ林におけるシラカシ花粉粒生産量の推定 清永丈太(東京都・都市計画局)

学会からのお知らせ

○-34	13:24	13:36	飯綱火山南東麓の逆谷地泥炭層の層序..... 富樫 均 (自然保護研)・酒井潤一・公文富士夫・小林舞子 (信州大)	
○-35	13:36	13:48	逆谷地湿原堆積物の花粉化石からみた植生変遷 小林舞子 (信州大・院)・酒井潤一 (信州大)・富樫 均 (長野県自然保護研究所)	
○-36	13:48	14:00	ニュージーランド北東部Poukawa湖における過去約65,000年の絶対花 粉量分析..... 奥田昌明 (千葉中 央博)・J.Flenley (Massey Univ.)・J.Shulmeister (Victoria Univ.)	
○-37	14:00	14:12	第8回野尻湖陸上発掘における考古学的成果 市川桂子 (長野県埋蔵文化財センター)・野尻湖発掘調査団	
○-38	14:12	14:24	帯広市稲田1遺跡の細石刃石器群における搔器 高倉 純 (北大)	
○-39	14:24	14:36	広島県帝釈峡遺跡群における後期更新世 完新世の中・大型哺乳類の大 きさの変化 (予報)..... 藤田正勝 (大阪市大)・河村善也 (愛知教育大)	
		14:36	16:00	コーヒープレイク・ポスターセッション
○-40	16:00	16:12	十勝平野に分布する活断層のセグメンテーションについて 越後智雄 (千葉大・院)	
○-41	16:12	16:24	養老断層の最新変位地形とその構造 東郷正美 (法政大)・今泉 俊文 (山梨大)・佐藤比呂志 (東大地震研)・岡田篤正・竹村恵二・石山達 也・中西利典・大石 超・田中ゆかり (京大)・中田 高 (広島大)・宮 内崇裕・穴倉正展 (千葉大)・池田安隆・田力正好・御竿健太郎 (東大理)・ 平野信一 (東北大)・澤 祥 (鶴岡高専)・八木浩司 (山形大)・水本匡起 (法政大)・金田平太郎 (四国電力(株))・原口 強 (復建調査設計(株))	
○-42	16:24	16:36	完新世における養老断層系の活動履歴 - 1586年天正地震・745年天平地 震震源断層の可能性 - 須貝俊彦 (東大)・ 伏島祐一郎・粟田泰夫・吾妻 崇・苅谷愛彦 (地調)・岩崎孝明 (ジオ・ サイエンス)・小俣雅志 (アイ・エヌ・エー)・中井信之・松山澄久 (地球 科学研究所)・鈴木康弘 (愛知県大)・中井正幸 (大垣市教育委員会)	
○-43	16:36	16:48	隆起石灰質遺骸コアから推定される室戸岬の隆起様式 前空英明 (山口大)	
○-44	16:48	17:00	韓国南東部・蔚山断層の古地震活動 - 慶州市葛谷里における第2次トレ ンチ調査 - 鈴木康弘 (愛知県立大)・渡辺満久 (東洋大)・岡田篤正・ 竹村恵二 (京大)・慶 在福 (韓国教員大)・廣内大助 (名古屋大)・金 幸隆・峯元 愛・大石 超・中村洋介 (京大)・成瀬敏郎 (兵庫教育大)	
○-45	17:00	17:12	Western Australia, Hyden Fault のトレンチ発掘調査 - 安定大陸地域 の地震危険度評価 - A.J.Crone・M.N.Machette (U.S. Geological Survey・Denver)・P.M.De Martini (Istituto Nazionale di Geofisica)・奥村晃史 (広島大)・J.R. Prescott (University of Adelaide)	
○-46	17:12	17:24	カトマンズ盆地南縁の活断層とその活動度 八木浩司 (山形大)・前空英明 (山口大)・中田 高 (広島大)	
○-47	17:24	17:36	中央海嶺の活構造と熱水活動の構造規制その - 1 低速拡大軸 - 大西洋中 央海嶺の熱水を例に - 藤岡換太郎 (海洋科学技術センター)	
	18:00	20:30	懇親会 (京大北部構内生協「ほくと」)	

ポスターセッション

No.	題目・氏名
P-1	北海道東部厚岸湿原における過去2000年間の湿原植生変遷 - 相対的海水準の急激な変化 に対する植物群の応答 - 澤田寿子・沢井祐紀 (九州大)
P-2	網走湖近 2500年間の環境変遷 - その3 縞状堆積物の新しい観察法.....

- P-3 松岡裕美(高知大)・高橋幸一(北海道開発局)・許成基((株)レアックス)・岡村真(高知大)・村山雅史(北大)・中村俊夫(名古屋大)・須井健次(基礎地盤コンサルタンツ(株))
北海道北部,クトネベツ川低地における完新世中期以降の古環境変遷.....大平明夫(宮崎大)
- P-4 黒曜石石器群における被熱痕跡の諸形態とその定量的把握.....中沢祐一(北大・院)
- P-5 ジオスライサーによる海浜堆積物の定方位採取法.....原口強(復建調査設計(株))・
藤原治(核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)・村岡明子((株)ダイヤコンサルタント)・高田圭太(広島大・総合地誌研究資料センター)・宍倉正展(千葉大・院)
- P-6 房総半島南部岩井低地における完新世浜堤群の離水・沈水過程 - ジオスライサーによる海
浜堆積物調査 -宍倉正展
(千葉大・院)・原口強(復建調査設計(株))・越後智雄(千葉大・院)・副田宜男(西日
本技術開発(株))・武田大典((株)パスコ)・平柳幸彦((株)富士通静岡エンジニアリング)
- P-7 野川流域の遺跡と水環境.....比田井民子(東京都埋
蔵文化財センター)・松田隆夫(府中市役所)・伊藤健(東京都埋蔵文化財センター)・西
井幸雄(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)・向山崇久(狛江高)・羽鳥謙三(前橋工科大学)
- P-8 数値モデルによる完新世中期の東京湾の古潮汐推定.....上原克人(九大・応力研)
- P-9 塩山市一之瀬のホルンフェルス分帯と飯能層ホルンフェルス礫との比較.....
加賀美英雄(城西大)・谷口英嗣(駒沢大高)
- P-10 大阪湾の完新世海況変動:北津守コアと神戸沖コアの堆積相解析.....
宮原伐折羅・増田富士雄(京大)・
入月俊明(愛知教育大)・吉川周作(大阪市立大)・藤原治(東濃地科学センター)
- P-11 出雲平野の地形発達史(1) - 珪藻・イオウ分析による古環境復元 -
沢井祐紀(九大院)・中村唯史((株)日新技術コン
サルタント)・渡辺正巳(文化財調査コンサルタント(株))・内田律雄(島根県教育委)
- P-12 東郷池年縞堆積物を構成する珪質微化石の群集組成変化.....
石原園子・加藤めぐみ(都立大)・谷村好洋(科博)・福澤仁之(都立大)
- P-13 香川県高松港からみつかった明治時代の氾濫堆積物.....川村教一(高松高)
- P-14 長崎県大村湾におけるセディメント・トラップ試料より得られた浮遊性珪藻の解析
- 浮遊性珪藻の生態・堆積過程の検証が水成堆積物を用いた古環境復元に果たす役割 -
.....加藤めぐみ
(都立大)・谷村好洋(国立科学博物館)・松岡數充(長崎大)・福澤仁之(都立大)
- P-15 大村湾表層堆積物中の渦鞭毛藻シスト群集組成変化に認められる富栄養化 - (1980 1981
年と1998年との比較) -林正男・松岡數充(長崎大)
- P-16 ため池堆積物への環境磁気学的研究の試み.....佐藤高晴・足立千枝(広島大)
- P-17 琉球列島喜界島北東部における後期更新世サンゴ礁段丘の形成史.....
村上和男・佐々木圭一・大村明雄(金沢大)
- P-18 地質の違いによる地形特徴量の評価.....川畑大作(京大・院)
- P-19 韓国洛東江河口部(釜山)の沖積層について.....北田奈緒子・斎藤礼子・宮川ちひろ・
諏訪靖二((財)大阪土質試験所)・朴性栽(釜山大学)・鄭京皖(東亜地質(株))
- P-20 長江デルタ下の谷埋堆積物にみられる潮汐堆積物.....
堀和明(東大・院)・斎藤文紀(地調)・趙泉鴻・成榮・汪品先・李从先(同済大)
- P-21 タイ東北部コラート高原におけるストーンラインと砂質被覆層の形成過程.....
吉木岳哉(京大)
- P-22 日本の海成段丘アトラスの作成.....段丘アトラスワーキンググループ
- P-23 東北地方の主要活断層詳細図とその分布・変位速度からみた地震テクトニクス.....
宮内崇裕(千葉大)・今泉俊文(山梨大)・佐藤比呂志(地
震研)・池田安隆(東大)・東郷正美(法政大)・八木浩司(山形大)・渡辺満久(東洋大)・
平野信一(東北大)・澤祥(鶴岡高専)・平柳幸彦((株)富士通静岡エンジニアリング)

学会からのお知らせ

- P-24 On the West Sagami Bay fault and generation of seep related to Hatsushima community, off central Japan..... Shiguo WU・Izumi SAKAMOTO & Jiren XU(Japan Marine Science & Technology Center)
- P-25 福井県若狭地方・三方断層のトレンチ調査 小松原琢・水野清秀・寒川 旭(地調)・山崎晴雄(都立大)・金田平太郎(四国総研)・須藤宗孝・山根 博(ダイヤコンサルタント)
- P-26 ボーリング調査と音波探査から推定される三方五湖低地帯の地下構造 水野清秀・小松原 琢(地調)・山崎晴雄(都立大)・安間 恵(川崎地質)・須藤宗孝(ダイヤコンサルタント)・鈴木 茂・藤根 久(パレオ・ラボ)
- P-27 大阪堆積盆地北部の三次元地下構造 井上直人・中川康一(大阪市大)
- P-28 上町断層帯南部の活断層調査 斎藤礼子・北田奈緒子((財)大阪土質試験所)・大阪府地域活断層調査委員会(尾池和夫・岡田篤正・土岐憲三(京大)・中川康一・吉川周作(大阪市立大)・寒川 旭(地調)・小畑秀夫(大阪府)・内山一郎(大阪府)
- P-29 神戸市多井畑断層の活断層調査 溝上寿子・北田奈緒子・斎藤礼子((財)大阪土質試験所)・岡田篤正(京大)
- P-30 和歌山平野北東部における中央構造線断層帯の活動履歴 岡田篤正・堤 浩之(京大)・池田安隆・中村正夫(東大)・久富邦彦(和歌山大)・水野清秀(地調)・松井和夫・斎藤 勝・山根 博(ダイヤコンサルタント)
- P-31 中央構造線活断層系鳴門南断層の地下構造と完新世活動 岡田篤正(京大)・中田 高(広島大)・松波孝治(京大)・日下雅義(徳島文理大)・村田明宏(徳島大)・許斐 直(京大)・水野清秀(地調)・谷 寛文(徳島県)・森野道夫(応用地質)
- P-32 日本海東部中 - 上部更新統の広域テフラ
... 白井正明(電力中央研・地)・多田隆治(東大)・藤岡換太郎(海洋科学技術センター)
- P-33 北西太平洋で採取された海底コア中の第四紀中期・後期テフラ層序 青木かおり(北大・院)・山本浩文(海洋科学技術センター)
- P-34 完新世テフラガラスの屈折率と水和の影響を除去する方法 中村有吾(北大・院)・片山美紀(日製産業)・平川一臣(北大)
- P-35 石英の ESR による上宝・大町 A テフラの識別と年代測定 塚本すみ子・鈴木毅彦(都立大)
- P-36 別府湾北岸地域における火砕流のフィッシュン・トラック年代 峯元 愛・竹村恵二(京大)・檀原 徹((株)京都フィッシュン・トラック)
- P-37 北関東内陸域, 那須野原において認定された MIS7-6 に形成された河成段丘群 鈴木毅彦(都立大)
- P-38 東アジアから採取したレス堆積物の TL・OSL 年代測定 綿貫拓野・塚本すみ子(都立大)
- P-39 蒲田川左俣谷における氷河底堆積物の光ルミネッセンス(OSL)年代測定 近藤玲介・塚本すみ子・綿貫拓野・岩田修二(都立大)
- P-40 南極氷床コア中のテフラ微粒子の化学分析 林 伸幸(日大)・福岡孝昭(立正大)・河野美香・藤井理行(極地研)・遠藤邦彦(日大)

会費の早期納入のお願い

日本第四紀学会では厳しい財政状況を打開するため、機関誌・財政等検討委員会の答申に基づき、会誌の6号化、増頁等を行って学会の活性化を図るとともに、印刷費、送料等の経費の大幅な削減を実施しております。このような努力の成果は、投稿論文数の増加などとなって現れています。しかし、一方では会費の納入率が例年の同時期に比べて低下しており、収入の確保が大きな問題になっています。そこで会員の皆様には、できる限り早期に会費を納入いただき、学会財政の安定化にご協力下さいませようお願いいたします。

また、これまで学生会員で、卒業・就職等により社会人となられた方は正会員への資格変更をお願いいたします。学会事務センターの第四紀学会事務局に手紙、電話、Fax、Eメール等で資格変更の旨をご連絡いただければ変更手続きは完了します。日本第四紀学会の運営は皆様の会費によって支えられています。ご協力を重ねてお願いいたします。

The 31st INTERNATIONAL GEOLOGICAL CONGRESS Rio de Janeiro, August 06-17, 2000

第31回国際地質学会（リオデジャネイロ）の講演要旨締め切りは1999年9月1日（組織委員会必着）です。発表を希望される方は、9月1日までにセカンドサーキュラーに添付された様式に記入して郵送されるか、ホームページからの電子投稿を利用して下さい。Special Symposiumは招待講演だけで、一般の講演はGeneral Symposiumに限られます。詳細はセカンドサーキュラーまたはホームページを参照して下さい。

大会ホームページ <http://www.31igc.org/>
電子投稿 <http://www.31igc.org/abstracts/index.htm>

以下講演募集および各種締め切りに関する抜粋です。

The 31st INTERNATIONAL GEOLOGICAL CONGRESS, a traditional event of the international geoscience calendar, is to be held in Rio de Janeiro, Brazil, from August 6 to 17, 2000. This will be the first of such events in South America, and it will coincide with the 500th anniversary of the discovery of Brazil by Portuguese navigators.

It is therefore highly appropriate that in times of major technological advances and the growing role of geoscientists in the development and improved usage of natural resources in evolving societies, the Organizing Committee of the 31st IGC has chosen as the central theme of the Congress: **GEOLOGY AND SUSTAINABLE DEVELOPMENT: CHALLENGES FOR THE THIRD MILLENNIUM.**

The technical program of the 31st IGC will consist of Colloquia, Symposia (Special and General), Short Courses, Workshops, and Field Trips.

This **CALL FOR ABSTRACTS** is directed at contributors to the Special and General Symposia. No funding for authors will be available from the Organizing Committee.

For the Special Symposia only contributions from invited speakers are expected. They will present their papers orally and must await for the conveners' instructions.

General Symposia will cover the various disciplines of geosciences and are open to papers spontaneously presented by the world geological community. Poster sessions will play an essential role in the general symposia: each symposium will consist of one afternoon dedicated to poster sessions, followed next morning by five oral presentations by keynote speakers chosen by the symposium conveners. After the presentations, session will be open to the audience. The contributors selected for oral presentation will be advised well in advance to prepare adequately their work.

All Abstracts must reach the Organizing Committee no later than September 1st, 1999. All them will be reviewed by the Scientific Program Committee of the Congress and authors of those accepted for presentation will be informed by December 31st, 1999. Only registrants to the Congress may submit abstracts.

All abstracts must be in English and are limited to 250 words. They will be printed using the author-prepared, camera-ready copy, following the Congress format. A sample of the form will be included in the Second Circular.

Authors are invited to submit new and original work. General Symposia include abstracts of spontaneous contributions that will be selected based on their geological significance, quality, originality and scientific interest. Whenever, appropriate, the theme of the Congress should be taken into account in the preparation of the contributions. Congress attendees can submit more than one abstract. The Scientific Program Committee reserves the right to accept or refuse contributions on the basis of the abstracts.

Abstracts have to reach the Organizing Committee no later than September 1st, 1999. The Conveners of each General Symposium will review the abstracts, and authors will be notified of the acceptance or rejection by December 31, 1999.

SCHEDULE PREVIEW

Abstract submission deadline	September 1st, 1999
Return of Registration Forms	December 1st, 1999
Full payment of Preregistration	December 1st, 1999
Return of fees of Field Trips, Short Courses and Workshops	December 1st, 1999

自然史学会連合ニュース

科学研究費補助金「国際学術研究」の廃止に対する自然史学会連の対応について：

平成12年度から文部省科学研究費補助金国際学術研究が廃止され、それが基盤研究に統合されることになりましたが、国際学術研究を強力に推進しておられる学会、例えば、日本霊長類学会では、その取扱に不都合を感じられ、文部省や日本学術振興会に要望書を提出しておられます。霊長類学会でまとめられた問題点は以下の5点です。

- (1) 内々定がなくなり年度早期の調査に支障をきたす。
- (2) 外国人研究者が分担者になれなくなり、真の

共同研究に支障をきたす。

(3) 小規模の研究機関では代表者が自機関に班員の1/2以上を確保することが困難な場合が生じる。研究の性格によっては、多機関に分散することが必要となる。

(4) 外国旅費が30%（または40%）に制限されるのは海外調査の実状に合わない。

(5) 発展途上国における現地調査を一般の研究計画と一括審査されると不都合が生じる。

自然史学会連合では、この問題に対して、参加学協会の意見をまとめて学術振興会などへのアピール文書の作成を計画しています。学会員の意見・要望をお寄せ下さい。

連絡先： 渉外幹事，中村俊夫，名古屋大学年代測定資料研究センター

Tel:052-789-2578 Fax:052-789-3092 e-mail:g44466a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

自然史学会連合・日本学術会議50周年 合同シンポジウム 博物館の21世紀 ナチュラルヒストリーの将来」

主 催： 自然史学会連合・日本学術会議ミュージアム小委員会

後 援： 国立科学博物館

日 時： 1999年10月16日（土）午後1時から4時30分

場 所： 国立科学博物館新宿分館・研修館4階講堂

プログラム：

(1) 国立科学博物館を考える (甲能直樹，国立科学博物館地学研究部)

(2) 大学博物館とは何か？ (林 良博，東京大学農学生命科学研究科)

(3) 21世紀の大学博物館と自然史標本 (本川雅治，京都大学総合博物館)

(4) 地域博物館では、一体何を研究しているのだろうか？
(山崎晃司，茨城県自然博物館)

(5) 自然史科学における遺伝子と画像
(森脇和郎，総合研究大学院大学；今井弘民，国立遺伝学研究所；
鷓川義弘，宮城教育大学)

(6) 博物館での自然史学習 ハンズオン思潮を基本に
(濱田隆士，神奈川県立生命の星・地球博物館)

(7) 総合討論

Western Pacific Geophysical Meeting(WPGM)-2000

主 催： American Geophysical Union(AGU)

共 催： 地球惑星科学関連学会連絡会

会 期： 2000年6月27日（火）-30日（金）

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

*注 日程、会場が決まりましたのでお知らせします。今回は2000年地球惑星科学関連学会合同大会と一部重なった日程で実施されます。詳細は、追って掲載します。

IGCP Project 437 Coastal Environmental Change During Sea-Level Highstands:

A Global Synthesis With Implications For Management Of Future Coastal Change. Inaugural Annual Meeting: Hawaii, November 9-12, 1999

1999年に発足したIGCP Project 437の第1回会合が11月にハワイで開かれます。会議の最新情報は <http://www.iugs.org/iugs/news/igcp437-0.htm> で、本プロジェクトについては <http://www.iugs.org> をご覧下さい。

Chip Fletcher (University of Hawaii) has very kindly agreed to host the First Annual Meeting of IGCP Project 437 in Hawaii. The meeting is entitled The Non-Steady State of the Inner Shelf and Shoreline - Coastal Change on the Time Scale of Decades to Millennia. This should prove to be a particularly exciting meeting, especially as the following Keynote Presentations are to be given by:

- | | | |
|-------------------|---|---|
| Richard Fairbanks | - | Transitions between states of global change |
| Larry Edwards | - | Geochronology of interglacial shorelines |
| Kelvin Berryman | - | Tectonic imprints on coastal records |
| Richard Peltier | - | Global Glacial Isostasy and Coastal Evolution |
| Colin Woodroffe | - | Morphodynamic response of shorelines to interglacials |
| Paul Hearty | - | The Antarctic Wild Card during Late Quaternary sea-level highstands |

Note: The deadline for Abstract submission has been extended to the 1st September 1999.

Research presentations are invited on aspects of:

1. Changes in sea-level over the Late Quaternary;
2. Processes of coastal sediment production, exchange, storage and bypassing;
3. Coastal evolution;
4. Patterns and records of reef accretion and change;
5. Coastal environmental geochemical and geophysical processes and records;
6. Coastal atmospheric, oceanographic, and tectonic events and histories;
7. Coastal change and human interaction.

Clearly, there is plenty of scope for a wide range of presentations and we sincerely hope to see you at the meeting. Copies of the First Circular for the Conference may be obtained by writing to:

Further information may also be obtained by writing to Chip Fletcher at:

School of Ocean and Earth Science and Technology (SOEST)
Department of Geology and Geophysics, POST 721
University of Hawaii
1680 East-West Rd., Honolulu HI 96822
Tel: 808-956-2582 Fax: 808-956-5512
Email: coastal@soest.hawaii.edu

Further Information about IGCP Project 437 may be obtained from me at the address below:

A/Prof Colin V. Murray-Wallace
Project Leader IGCP 437
School of Geosciences
University of Wollongong
New South Wales, 2522, Australia
Tel: 61-2-4221-4419 Fax: 61-2-4221-4250
Email: colin_murray-wallace@uow.edu.au

「潮汐堆積物-2000」のご案内

潮汐堆積物に関する国際会合が来年6月に韓国で開催されます。4年に1回開催されるこの会合は過去欧米で開催されてきましたが、アジアでは初めてとなります。第四系の発表も多く、堆積相やシーケンス層序解析の基礎的理解と最先端の情報を得る絶好の機会です。是非ご参加下さい。
齋藤文紀(地調・海洋)

Tidalite-2000 International Conference, June 12-14, 2000, Seoul, Korea

Pre-registration Announcement and Questionnaire

We cordially invite you and call for your paper presented at the Tidalite-2000 meeting held in Seoul, Korea. We will provide 4 field trips (1 pre- & 3 post-trips) focussed on recent macrotidal flat sedimentology in the eastern Yellow Sea and Pleistocene tidalite (Japan). In the field trips you would experience a full scope of variable nonbarred macrotidal flats in the open coast.

* The first circular will be distributed at the end of September, 1999.

* Please inform this meeting to your colleagues and students who are interested as widely as possible.

PRELIMINARY EXPRESSION OF INTEREST

NAME:

ADDRESS:

COUNTRY:

ZIP/POSTAL CODE:

TELEPHONE:

FAX:

E-MAIL:

Please tick the appropriate box:

[] There is a good chance that I will attend the meeting in Seoul.

I am likely to present a talk []; a poster [] at the meeting

The tentative title is :

[] It is likely that I will require University accommodation (SNU Hoam Faculty House)

[] I would like hotel accommodation (Hotel Novotel Doksan)

[] I will be accompanied by my spouse

[] I would like to share a room with _____

For further details, please contact:

Convenor:

Prof. Dr. Yong A. Park

Chairman, the Local Organizing Committee for Tidalite-2000

Department of Oceanography

Seoul National University, Seoul 151-742, South Korea

Tel: 82-2-880-6745 Fax: 82-2-880-0311

E-mail: yap@plaza.snu.ac.kr

Secretary General: 送付先

Prof. Dr. Seung-Soo Chun

Faculty of Earth System and Environmental Sciences

Chonnam National University

Kwangju 500-757, South Korea

Tel: 82-62-530-3456 Fax: 82-62-530-3459

E-mail: sschun@chonnam.chonnam.ac.kr

Sweden Excursion, May 1999 の報告

植村善博（佛教大学）

100年以上にわたって蓄積されてきたスウェーデンの第四紀研究の到達点を紹介し、同時に当面している課題について現地で直接観察・討論しようという研究会が行なわれた。北緯 64 度の Umea から 56 度 Kattegat 海峡に臨む Bastad まで直線距離にして 1000km を、バスによって 7 日間で走破する巡検旅行であった。この企画・運営はストックホルム大学の Morner 教授とその協力者 5 名のチームワークと献身的な努力によって実現されたものだった。また、INQUA ネオテクトニクスおよび海岸線委員会との共催でおこなわれ、Bartolini、Tooley 両委員長をはじめ、16 カ国から 46 人の参加があった。日本からは嶋本（京大）、安間（筑波大）と私の 3 名であった。スウェーデンといえば DeGeer の氷河性アイソスタシー、Liden による氷縞粘土による編年、von Post や From らによる花粉分析と古気候・古環境の復元研究など輝かしい第四紀研究が先進的に進められてきた。それらをふまえた上で、今日的課題としてアイソスタシーとユースタシー、古地震、気候と海岸線の変化の三点に中心をおいて議論するものであった。

一日の日程は、朝食後一時間程度の巡検地域のテーマと問題点について OHP による説明に始まる。長距離を移動しながら多くの露頭や地形を観察することを目指すために、ランチは露頭の前、湖畔や牧場など青空の下、ピクニック気分でサンドウィッチをほおばるといったパターンであった。ちょうど夜の一番短い季節であったから、朝 9 時に出て宿到着は午後 8 ~ 9 時、ちょうど半日を野外観察と移動にあてるという急げ者にはきびしいスケジュールで、中味の濃い日々の連続であった。全員が感心させられたのは Morner 教授の超人的な活動力とヒューマンな精神、そして第四紀はいうに及ばず地理・歴史に関する豊富な知識とふかい洞察力であった。バス中での解説は立ったままマイクを握って離さず、現場では長靴、シャベルで自ら壁面を掘削する活動的な姿は感動的でした。そして、参加者一人一人に話しかけ、意見を求めるこまやかな気配り、ユーモアと機転にあふれる話題で、車中はしばしば爆笑の連続で退屈することはなかった。みんなからニクラス（サンタ）と愛称でよばれて尊敬と信頼を集めたことであった。

巡検コースはかつて氷床が 3km の厚さに達し年 3cm というリバウンドの中心オンゲルマンランドから始まった。そこから徐々に隆起の周辺部へ南下し、移り変わる地形や地層の特徴、研究方法などを観察した。最後は年 1mm 程度の隆起を示す Bjare 半島の海岸段丘と現成ビーチの観察で終わった。とりわけ、後氷期汀線の高度 294m という世界最高位の丘頂 Skulebergets ヘスキーリフトにのって登頂、10 世紀頃のビーチが高度約 10m に隆起し、漁師が舟付き場を前へ前へと移動させていく海が土地を生む村 Kuggorarna、氷食によって研磨された花崗岩が節理に沿ってずたずたに切り裂かれ、ずれ動いて崩落した Boda Cave の移動岩塊と丘陵地形など印象深い。また、中部のセデルマンランドではボーリングによる氷縞粘土の掘削・観察をおこなった。1.2 万枚以上が編年されているという。ここにはテフラはないがバーブがある。

討論の中心点の一つは、リバウンドによる隆起の時代的変遷とユースタテイクな海面変化との融合と分離であった。検潮儀や水準測量など観測時代のデータ、Birka などバイキング期の遺跡と古地理変化、数多く認定された旧汀線や旧海面指示者と年代資料など圧倒的な調査データが緻密に総合されており、その成果は十分な説得力をもつものであった。他の問題は融氷期の約 1 万年前頃に大型地震が多発したという仮説とその根拠についての検証であった。地層中の液状化やタービダイト、津波堆積物？などがそれで、バーブによって正確に年代確定がなされていた。しかし、津波堆積物については疑義が出され、その認定は大きな議論となった。また、同一年代のこうした現象が観察される地域の広がりをマグニチュード推定の根拠としていた。Umea 地域での発生は 9500 年前頃と 9663 年前にあり、Stockholm 付近では 10500 ~ 10400 年前の間に 5 回の M 8 クラスの巨大地震が連発したと主張する（M 8 とする根拠は 200km 程度の地域に上の現象が分布することにある）。さらに、南部では 11700 年前に発生しており、北部ほど発生年代が新しくなる。10300 年前の Baltic 氷河湖から Yoldia 海への古地理変化は、津波の発生によって北海との低い分水界をなしていた Narke 地峡の氷塊を越えて海水が侵入したためであるとも主張している。一方、丘頂部の花崗岩岩塊のズレや崩落、急崖部での地すべり地形などの現象を強引に地震に結びつけようとする傾向はあった。さらに、これらの震源として古生代に活動した断層（例えば Leggesta fault）の再活動が主張されていた。この断層露頭や地形についても疑問があったが、詳しい説明はなかった。確かに氷床の急激な後退期に尋常ならざる事件が発生したであろうことは肯定できる。しかし、野外での個々の証拠にはまだ確定的なことはいえない印象をもつものがあつた。

これ以上、個々の問題点について触れる余裕はないが、わが国の 93 年津波や 95 年直下型地震の研究成果が大いに注目されていることを感じた。それはともかく、巡検中に 3 度も地元新聞記者の取材を受け、翌朝にはカラー写真で巡検と教授の成果が報道されるという、自然についての強い関心と物見高い地方の人達の気質がほほえましく感じられた。最後に、この有意義な巡検に関する全ての手配を万全の体制で完遂された Morner 教授および Sjöberg、Troften 両氏をはじめとする協力者の皆さんに心からお礼を申し上げたい。

"東海地震"防災セミナー 1999[第16回]のお知らせ

昭和59年以来、毎年静岡市で開いてきましたが、本年も下記のとおり開催致します。関心をお持ちの方々のご参加を期待します。

日 時：平成11年11月11日(木)13:30 - 16:00
会 場：静岡商工会議所会館5階ホール (JR静岡駅北口西側)
テーマ：東海地震防災への新たな取り組み
座 長：名古屋大学名誉教授 飯田 汲事
1. 大規模地震災害の特徴と問題点
京都大学防災研究所教授・工博 河田 恵昭
2. 効果的な地震防災対策
東京大学生産技術研究所助教授・工博 目黒 公郎
主 催：東海地震防災研究会
連絡先：〒422-8035 静岡市宮竹1-9-24 土研究事務所 土 隆一
Tel.:054-238-3240 Fax:054-238-3241

第3回尾瀬賞推薦候補者の募集

尾瀬賞は「湿原」に関する学術研究を顕彰することにより、この分野の学問的・学際的研究の進展を図るとともに、環境保護に関する関心を高めることを目的とします。

募集期間：1999年6月1日～10月末日
対 象：「泥炭を有する湿原及びそこを生活の場とする生物」に関する研究をしている50歳未満の研究者（グループ研究の場合は研究代表者）。
問い合わせ先：〒301-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7 財団法人尾瀬保護財団
Tel 027-253-7813 Fax 027-253-7829
e-mail info@oze-fnd.or.jp

沖縄賞推薦候補者募集

日本第四紀学会では(財)沖縄協会より沖縄賞受賞候補者の推薦依頼を受けています。推薦希望の会員の方は庶務幹事までお知らせ下さい。応募書類をお送りします。必要事項を記入した応募書類を返送していただいで、幹事会にて推薦します。

対象者：沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学,人文科学又は社会科学)を行っている50歳以下(7月15日現在)の新進研究者(又はグループ)。
推薦応募締切：9月14日(学会事務センター到着)
応募書類請求先：〒192-0397 八王子市南大沢1-1
東京都立大学大学院理学研究科地理学教室 山崎晴雄
Tel. 0426-77-2592 Fax.0426-77-2589
e-mail : yamazaki@comp.metro-u.ac.jp

日本第四紀学会 第14回幹事会議事録

日 時：1999年4月3日(土曜日) 10:30～13:00
場 所：筑波大学学校教育部 E235 共通会議室
出席者：米倉会長, 太田副会長, 小野, 松浦, 中村, 吉川, 山崎, 中川(学会事務センター)

報告事項

庶務幹事報告

1. 選挙管理委員会の発足について：3月6日第1回選挙管理委員会開催, 委員長選出と評議員選挙日程決定。

委員長 久保純子, 委員 樋泉岳二, 近藤 恵, 江口 誠一, 山田周二の各会員。

投票用紙は4月5日発送開始 締切は5月13日(木), 開票5月15日(土)。

2. 論文賞候補者選考委員会報告

3. 山本荘毅元会長の葬儀について

4. 受け入れ図書報告

5. 寄贈依頼・引用許可報告

会計幹事報告

1. 会計状況は現在若干赤字気味

2. 会誌・会報の同時発送により1回あたり約13万円の支出減となった。

3. 別刷り代は学会が立て替え, 投稿者より速やかに回収することとした。

編集幹事報告

1. 第四紀研究と第四紀通信の同時発送を開始した。

2. 6号化に伴う問題点：編集作業がタイトになっている。今が一番つらい時期か。編集書記の負担増大した。

渉外幹事報告

1. 地球惑星科学関連学会合同大会の準備は進んでいる。

2. 地質科学関連学協会報告：3月5日に設立のための会合が開催された。

研連報告

1. 学術会議については大きな変革がありそう、研連の見通しも不明。しかし、第四紀という項目が残るよう努力する。

企画幹事報告（代理）

青森県三内・大矢沢フィールド巡検を計画中。

会長報告

CCV99（気候変化のシンポジウム）の共催依頼。

審議事項

庶務幹事

1. 特許法第30条等に基づく学術団体指定手続きを行うことを承認。

会計幹事

1. 別刷り代、超過ページ代の請求業務について：請求は学会事務センターに依頼することにした。

編集幹事

1. 編集委員の増員について：投稿の多いテフラ、花粉関係で2名増員することが承認された。

2. 外国人編集委員の委嘱について：B. Atwater氏（USGS）を編集委員に委嘱する。期間は2001年7月まで。

3. 編集書記の位置づけの明確化と待遇改善：6号化に伴う書記の負担増を考慮して、書記の仕事の範囲を明確化すると共に待遇の改善を図ることが承認された。

4. 第四紀研究の査読体制について：投稿論文内容が複数の分野にわたっているものが増えているので、査読の2名化により編集委員の負担を軽減することが提案され、編集委員会と幹事会で引き続き検討することとした。

渉外幹事

1. 2000年の合同大会はAGUの西太平洋地球物理学集会（WPGM）と合同で行われる。そのため2000WPGMへのプログラム委員派遣を要請されていたが、第四紀学会からは委員を派遣しないこととした。

会長

幹事会開催の定期化を図りたい。2ヶ月毎に第一土曜日午後に行くこととした。

日本第四紀学会 第15回幹事会 議事録

日 時：1999年6月5日（土曜日）14:00～17:00

場 所：筑波大学学校教育部 E235 共通会議室

出席者：米倉会長、太田副会長、真野幹事長、小野、齋藤、松浦、中村、山崎

報告事項

庶務幹事報告

1. 評議員選挙を行い45名の当選者を確定した。また、新評議員による会長等役員選挙の準備を進めた。

2. 論文賞受賞候補者選考委員会を開催し委員長を選出。選考方針、選考手順などを検討し具体的な選考作業に入った。

3. 日本学術振興会より科研費「研究成果公開促進費」の審査結果が公表され、第四紀研究は本年度の補助金の対象にならない旨通知があった。

4. 受賞者推薦依頼報告

5. 後援依頼受諾報告

6. 書類・文書受領報告

7. 図書受け入れ報告

8. 学術シンポジウムの企画募集

評議員・役員選挙結果

1999 - 2000年度評議員選挙及び役員選挙当選者をお知らせします。

選挙管理委員長 久保純子

評議員選挙当選者

共通分野（定員5）：遠藤邦彦（地理）、太田陽子（地理）、町田 洋（地理）、熊井久雄（地質）、上杉 陽（地理）

地質学分野（定員10）：菊地隆男、吉川周作、新井房夫、齋藤文紀、竹村恵二、増田富士雄、松島義章、赤羽貞幸、福澤仁之、酒井潤一

地理学分野（定員8）：海津正倫、山崎晴雄、小野有五、奥村晃史、池田安隆、鈴木毅彦、小泉武栄、岩田修二

古生物学分野（定員4）：小泉 格、真野勝友、河村善也、糸魚川淳二

動物学分野（定員2）：土 隆一、宮武頼夫

植物学分野（定員2）：松下まり子、鈴木三男

土壌学分野（定員2）：坂上寛一、加藤芳朗

人類学分野（定員2）：小池裕子、松浦秀治

考古学分野（定員4）：小野 昭、小田静夫、織笠 昭、春成秀爾

地球物理学分野（定員2）：兵頭政幸、広岡公夫

地球化学分野（定員2）：大場忠道、中村俊夫

工学分野（定員2）：陶野郁雄、谷岡誠一

1999 - 2000年度役員選挙当選者

会 長：米倉伸之

副会長：熊井久雄

会計監査：上杉 陽、松島義章

幹 事：齋藤文紀、奥村晃史、真野勝友、松浦秀治、福澤仁之、中村俊夫

会員消息

会計幹事報告

1. 会計状況の報告。
2. 第四紀露頭集については原稿料130万円を現物支給により相殺する。
3. 支出は抑えられているが、収入が停滞気味である。特に団体会員の会費支払いが停滞している。

編集幹事報告

1. 編集委員会報告。第四紀研究の編集状況報告。
2. 編集委員の増員について。新委員候補者からは内諾を得ている。

行事幹事報告

1. 第四紀学会大会の準備状況について。
2. 予稿集の原稿到着状況、印刷部数等について。

渉外幹事報告

1. 地球惑星科学関連学会合同大会が6月8日から開

催される。

2. 地球惑星関連学会関係の諸報告(2000WPGM関係、会則関係等)。
3. 自然史学会連合関係、ワークショップ、シンポジウムの報告。

研連報告

1. INQUA 特集号を南アに搬送、関係者に配布する。

審議事項

1. 新幹事との合同幹事会を開催し引継を円滑にすることを承認。
2. 新編集委員及び外国人編集委員の委嘱について承認。
3. 1999年大会の参加費について徴収を承認。

会員消息

1999年3月～5月(受付順)

相馬秀廣会員 第2回尾瀬賞を受賞する

日本第四紀学会会員相馬秀廣氏(奈良女子大学文学部教授)は財団法人尾瀬保護財団から第2回尾瀬賞を受賞され、1999年6月18日に都道府県会館(東京都千代田区)において授賞式と記念講演会が開催された。尾瀬賞は「湿原」に関する研究において学術的および湿原保全の見地から優れた業績をあげ、今後の研究の深化が期待される個人を対象とするもので、相馬会員が受賞された研究課題は「泥炭地への流入土砂の変遷及び泥炭層の変化に関する研究」である。

新入会員

- 柴 正敏 (所属)弘前大学理工学部地球環境学科
荒川竜一 (所属)栃木県立博物館学芸部自然課
今村峯雄 (所属)国立歴史民族博物館情報資料研究部

永井節治

- 佐藤三七 (所属)鷹巣町教育センター
前島勇治 (所属)筑波大学応用生物化学系土壌科学研究室

北海道東海大学附属図書館

群馬大学附属図書館情報管理課学術情報係

- 溝上寿子 (所属)(財)大阪土質試験所技術コンサルタント部

- 杉原 薫 (所属)福岡大学理学部地球圏科学科地学分野

- 木村英人 (所属)(株)ダイヤコンサルタント北日本支社札幌支店 〒001-0010 札幌市北区北10条西2丁目13-

- 梶 清史 (所属)茨城県立太田第一高等学校

- 金城善美 (所属)沖縄基礎(株)

- 嶋田一勝 (所属)新潟大学大学院自然科学研究科地球環境科学専攻

- 谷野喜久子 (所属)お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

- 松宮正樹 (所属)東北大学大学院理学研究科地理学教室

- 吉本直一 (所属)北海道大学大学院地圏環境科学専攻地球環境変遷学講座

- 村瀬知暁 (所属)サン地質(株)
森野道夫 (所属)応用地質(株)四国支社技術センター
瀬戸浩二 (所属)島根大学総合理工学部地球資源環境学科
間野道子 (所属)復建調査設計(株)大阪支社地質調査課
小野弘道 (所属)(株)ニュージェック新潟支店
大平原寛 (所属)東京都立大学理学部地理学科
安原盛明 (所属)大阪市立大学理学部生物地球系人類紀自然研究室
小林舞子 (所属)信州大学大学院工学系研究科地球生物圏科学専攻

所属・自宅住所変更

- 漆原和子 (所属)法政大学文学部地理学教室
高野泰隆 (自)
青木哲哉 (自)
池田正男 (自)
宮内崇裕 (自)
斎藤岳由 (所属)千葉県立船橋北高等学校
飯島賢治 (所属)(株)パスコ名古屋支社計測技術部計測1課
岡沢祥子 (自)
内田 實 (自)
奥村 清 (所属)徳島文理大学工学部
高木信行 (自)
平野信一 (所属)東北大学大学院理学研究科地学専攻地理
中村正直 (所属)(財)千葉環境財団環境管理課
佐藤宏之 (所属)東京大学大学院新領域創生科学研究科環境学専攻
楡井 尊 (所属)さいたま川の博物館学芸一課
高橋 正 (所属)秋田県立大学
藤井 享 (所属)駒澤大学文学部自然科学教室
斉藤尚人 (自)
大和伸友 (所属)青森県立八戸高等学校
平林 潔 (自)
此松昌彦 (所属)和歌山大学教育学部地学教室
森永速男 (所属)姫路工業大学理学部地球テクトニクス Tel.078-785-6577 Fax.078-785-6577
大貫靖浩 (所属)農林水産省森林総合研究所森林環境部

諏訪 元 (所属)東京大学総合研究博物館
 小西省吾 (所属)みなくち子どもの森
 森山義博 (自)
 野口一郎 (所属)日本工営(株)地質部
 滝谷美香 (所属)北海道立林業試験場緑化樹センター生産技術科
 須貝俊彦 (所属)東京大学大学院新領域創生科学研究科環境学専攻
 高岡貞夫 (所属)専修大学文学部
 豊田 新 (自)
 山下佐祐美 (自)
 白井正明 (所属)(財)電力中央研究所地質部
 森川美幸 (所属)総合科学(株)環境評価第一部第三課
 川村弥生 (所属)函館白百合学園
 鈴木隆司 (所属)三祐(株)東京支店
 吉田裕香里 (所属)ミヤマ(株)環境地質事業部
 金 幸隆 (所属)京都大学大学院理学研究科地球物理学教室地殻物理学講座
 柳 博美 (自)
 小野映介 (自)
 森 勇一 (所属)愛知県立明和高等学校
 三谷 豊 (所属)千葉県立船橋法典高等学校
 長岡大輔 (所属)(株)レアックス
 清永丈太 (所属)東京都都市計画局地域計画部公園緑地計画課
 木村和雄 (所属)鳴門教育大学社会系教育講座
 竹内誠司 (自)
 吉川達也 (所属)エヌエス環境(株)技術部
 今泉知也 (所属)郵政省
 小林 淳 (自)
 中沢祐一 (自)
 坂井三郎 (所属)広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻地球環境進化学講座
 砂川奈都召 (所属)東北大学大学院理学研究科地圏進化学講座

逝去退会

(名誉会員) 渡辺直經,

退会者 小久保公司, 田村昭二, 西村 進, 長谷弘太郎, 染野 誠, 中村文子, 足立賢一, 大森昌衛, 門崎允昭, 新藤静夫, 日吉 直, 加藤 稔, 太田正道, 木下晴一, 児平英司, 仙頭宣幸, 大竹一彦, 小村精一, 紺田 功, 佐藤博之, 斉藤民明, 下重恒夫, 鈴木順雄, 菅原 啓, 高橋 博, 辻 秀子, 山内秀夫, 小谷凱宣, 牧田三三夫, 田中英司, 大石幸治, 増田 信, 石田正之, 香村官永, 桑原 徹, 国枝利満, 宮村雄一郎, 関口辰夫, 三枝 茂, (株)テクノ長谷, 開発工事(株)地熱開発部, 関西大学図書館雑誌係

訃報

本会会員渡邊直經氏は1999年5月10日逝去されました。本会においては1977年1月から1981年7月まで会長を務められました。また、1995年には国際第四紀連合の名誉会員に推薦されています。ご冥福を祈ります。

本会元会員高井冬二氏は1999年6月21日逝去されました。本会創設期の1956年から1964年まで長期にわたって幹事を務められました。ご冥福を祈ります。

第四紀通信に原稿をお寄せください

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史

〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3

kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp

Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

インターネットのアクセスできる方は第四紀学会ホームページ

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>で最新情報をチェックしてください。